

素描

アンボの六月」も  
二千三百の七万人  
(全国)という六  
〇年闘争以来の大  
動員をもつて七〇

年代闘争の第一歩を踏み出し  
た。新左翼も、一部で火炎ビン  
・投石などによる機動隊との衝  
突もあったが、大半はゲバ抜き  
で、自動銃とはいえ六〇年安  
保時のような挫折感・悲壮感  
みあたらず、「市民の反安保」  
運動を展開、さらに息の長い反  
安保闘争を続けることを誓い合  
った。▼ところでこれら「外  
(街頭)」の闘争にひきかえ、  
一昨年来の大学紛争の渦中にあ  
る「内」なる学園は、一見すっ  
かり鳴りをひそめているかにみ  
える。今日ではキャンパスは夏  
休みムードで、低調さは隠しき  
れない。「神田大学」といわ  
れ、かつては学生運動の拠点で  
あった三大学もロックアウト体  
制の足並みが揃い大学ベースの  
正常化が進んでいる。▼それ

にしても本学の十八日からのロ  
ックアウトは、抜き打ちの  
感が深い。「最近の「安保」  
の自動延長をめぐり、学内にお  
いて一部の学生の過激な行動と  
学生各セクト間の主導権争い  
による暴力行為の頻発」が今回の  
ロックアウトの理由だが、平た  
くいえば闘争学生の拠点になる  
恐れがあるからの処置で、どう  
みても泥縄式ロックアウトとい  
えそうだ。▼この当局の措置に  
対して、学生の抗議・反対運動  
はあるものの、全般的には何か  
散発的で、盛り上がりが見れない  
というも学生会のフロント、学  
苑会のMLの指導力の低下と中  
核・反帝評・革マル・民青、さ  
らにベ平連などの抬頭による、  
学生運動地図の変動が大きく影  
響している。学生同志の内ゲバ  
は双方の力を弱めるだけで、ニ  
ンマリとするのは、常に誰であ  
るかをおのれに考えて欲し  
いものである。▼だから、毎日  
の学生欄、紛争校の各大学ル  
ボ」の中で「ロックアウトや  
学生証のチェックがないのはそ  
の必要がないほど学生の力が弱  
くなっただけのことである」と  
述べているルボ氏の意見を十分  
にかみしめてみる必要があるた  
めには、「力の論理」に對抗する  
ためには、それに対抗する「力  
の論理」をもつてしなければな  
らないからだ。